

# 高精度な漁況漁場予測手法の開発

## I メジカ漁場予測

漁業資源課 猪原 亮

### 1 はじめに

本県における重要な漁業対象種であるマルソウダ（以下、「メジカ」という）は、近年、資源の変動や黒潮大蛇行による黒潮流路の変動などにより、曳縄漁における漁獲量が減少している。当該漁業の操業の効率化に資するため、令和 2 年度から早稲田大学、一般社団法人漁業情報サービスセンター及び国立研究開発法人海洋研究開発機構の協力のもと、漁場予測に取り組んできた。

令和 6 年度においては、令和 5 年度に早稲田大学が構築した漁場予測アルゴリズムを参考に、メジカ漁業予測システムの基本設計作成の業務委託を行った。

### 2 令和 6 年度の取り組み

#### ○メジカ漁場予測システム基本設計委託業務

- ・令和 6 年度メジカ漁場予測システム基本設計委託業務の候補者をプロポーザル方式により決定（令和 6 年 5 月 23 日）
- ・当該委託業務の契約を締結（令和 6 年 6 月 28 日）
- ・キックオフ協議を開催し、業務計画等の確認を実施（令和 6 年 7 月 5 日）
- ・業務の進捗管理のため、8 月から 11 月の期間には随時、臨時協議を実施
- ・有識者を交えた第 1 回定例協議会を開催し、業務の進捗状況を確認するとともに、9 月 30 日が完成期限であるシステム構築及び運用方法とそれらにかかる事業費の積算内容を確認（令和 6 年 9 月 3 日）
- ・上記の成果物一式を受領（令和 6 年 9 月 27 日）
- ・有識者を交えた第 2 回定例協議会を開催し、最終成果物であるシステムの基本設計書の内容を確認（令和 6 年 12 月 17 日）
- ・上記の成果物一式を受領し、業務を完了（令和 6 年 12 月 19 日）

### 3 課題及び今後の取り組み

- ・令和 7 年度には、本年度作成した基本設計を基にメジカ漁場予測システムの構築委託業務を実施するとともに、令和 8 年度における当該システムの運用保守費用の検討やシステムの精度向上に向けた取り組みを行っていく。
- ・システムの精度向上の取り組みについて、令和 7 年度は GPS 情報取得船の増隻に向け、GPS データ取得アプリの試験運用を実施する。

## 4 謝辞

高知マリンイノベーション運営協議会の委員の皆様、とりわけ早稲田大学基幹理工学部情報通信学科の小川哲司教授と一般社団法人漁業情報サービスセンター水産情報部の渡邊一功部長には、メジカの漁場予測システムの基本設計委託業務の実施にあたり、数々の貴重なご助言を頂きましたことを深謝いたします。

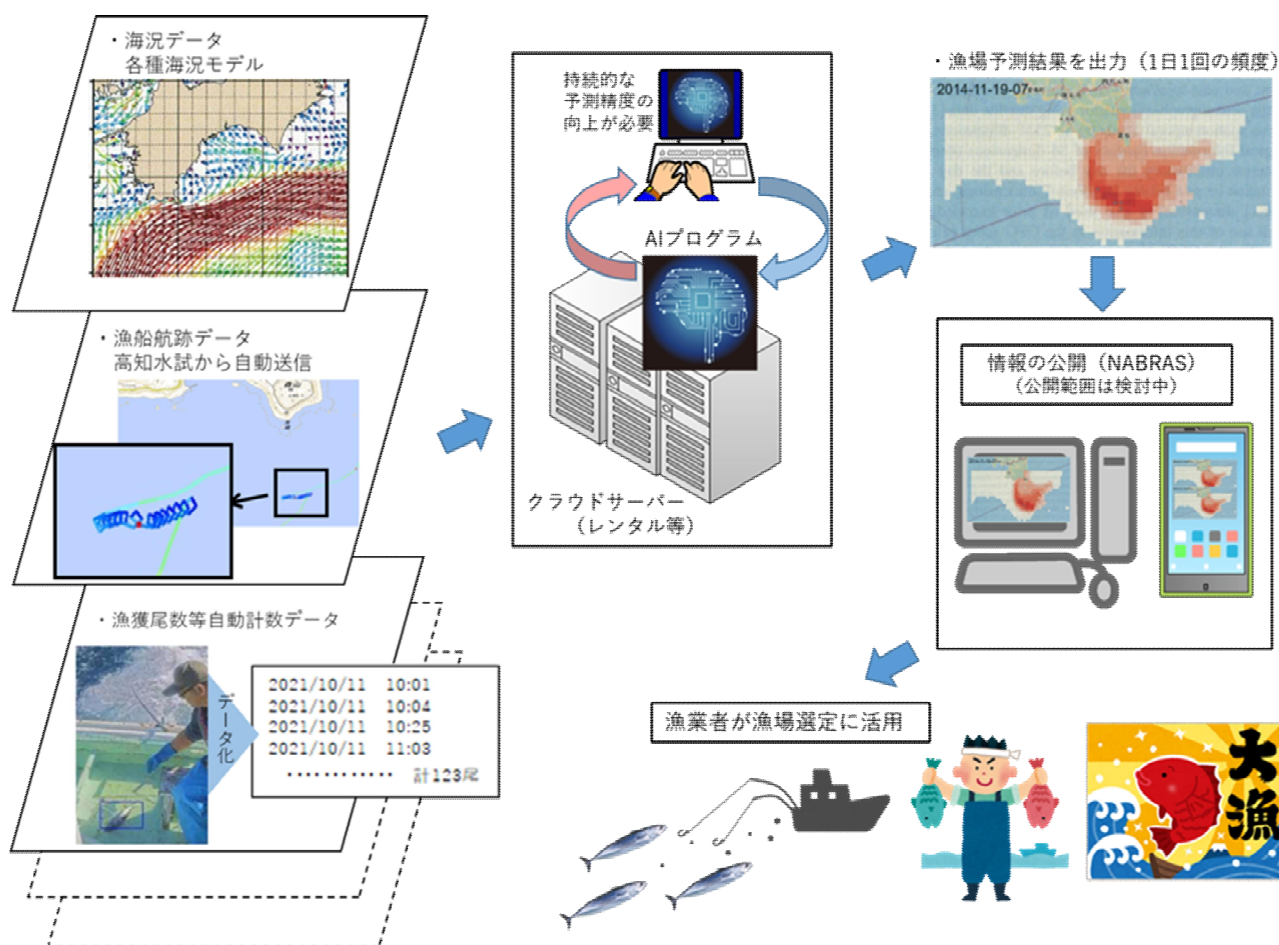


図 メジカ漁場予測システムの構成概要